

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	0173800525		
法人名	株式会社イワクラ		
事業所名	グループホームゆーあい天馬		
所在地	〒056-2402 北海道新冠郡新冠町字中央町1 7 番地1 1 (電 話) 0146-47-1111		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年2月16日

【情報提供票より】 (平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 14人, 非常勤 10人, 常勤換算	11.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	19,000～26,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円		
	夕食 円 おやつ 円		
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (11月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	0 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新冠町国民健康保険病院・医療法人静和会石井病院・新冠ファミリー歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、海に近い自然豊かで景色の良い土地に立地している。母体法人の所有地を利用し、敷地は広く畑もあり、建物も広々として、季節感のある温かい雰囲気を有しており、清潔で、換気も行き届いている。また、各居室には利用者が馴染みの物、思い出の品を持ち込み居心地の良い空間となっている。職員は、介護度の高い利用者へも、本人のペースや思いを尊重し、手を出しすぎずに見守り、待つこと、無理強いせずできる範囲で共に行うことを心がけながら、明るく、尊厳を傷つけないように接している。また、通院助や買い物等の外出に適宜対応し、様々なレクリエーションを計画するなど、利用者の状況に配慮しながら支援している。職員同士のコミュニケーションも良好で、理念に掲げる、まごころのある、楽しく家庭的でゆつくりとした安らぎのある事業所を目指し、日々実践に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「職員を育てる取り組み」については、内部研修にも積極的に参加するなど、改善している。「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、ターミナルケア研修への参加等、少しずつ取り組み始めているが、職員間や家族と話し合ったり、方針を書式化するには至っていない。「災害対策」については、地域の避難訓練に参加するだけでなく、事業所独自の避難訓練も行っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価には職員全員で取り組んでいる。また、外部評価の結果についても職員全員で話し合い、課題の改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度定期的に、社会福祉協議会職員、自治会長、利用者、家族代表等が参加し、運営推進会議を行っている。事業所の取り組み状況に関する報告以外に、地域活動や地域行事に関する打ち合わせ等、細かく議題を設定しており、運営推進会議を通して地域住民や町との連携を図っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には、毎月事業所だよりで利用者の暮らしぶりを知らせるとともに、利用者の健康状態等に何か変化があれば、随時電話で連絡をとるようにしている。重要事項説明書には、事業所内だけでなく外部の相談機関も明記している。職員は家族の来訪時には声をかけ、意見や苦情を言いやすい雰囲気づくりに心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、利用者は地域の行事に参加して、地域住民と交流している。また、近隣中学校の生徒の職場体験を受け入れている。しかし、周辺が新興住宅地であるという地域特性もあり、事業所の行事に地域住民が参加したり、日常生活の中で地域住民が気軽に事業所を訪れ、利用者と交流をするまでには至っていない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格や、生活のリズム、習慣を尊重し、楽しく安心して暮らせる事業所を目指した独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、居間、事務所など、分かりやすい場所に理念を掲示し、職員全員で共有している。職員は、「待つこと」「見守ること」を大切にしながら、明るく利用者に接するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、利用者は地域の行事に参加し、地域住民と交流している。また、近隣中学校の生徒の職場体験を受け入れている。しかし、周辺が新興住宅地という地域特性もあり、地域行事以外の日常生活において、地域住民と触れ合う機会はまだ少ない。	○	職員は、日常生活の中で、地域住民への挨拶や運営推進会議等を通じた地域との連携に取り組んでいる。今後はさらに、それらの活動を充実させ、地域の行事の際だけではなく、普段でも地域住民が気軽に事業所を訪れるよう、地域に根ざす事業所を目指した取り組みの継続を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表の記入には、職員全員で取り組んでいる。また、外部評価の結果についても職員全員で話し合い、課題点の改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、社会福祉協議会職員、自治会長、利用者、家族代表等が参加して、定期的に運営推進会議を行い、事業所の取り組み状況等について報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議やワーキング会議に参加し、町の福祉課や住宅管理課の職員、社会福祉協議会職員、保健師や栄養士等と情報交換を行って連携を図り、サービスに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行の事業所だよりで、利用者の暮らしぶりについて家族に報告している。また、健康状態や金銭管理等についても家族の訪問時に報告するとともに、遠方の家族には随時電話で連絡をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、事業所内の相談窓口だけでなく、外部の相談窓口も明記している。また、職員は家族の来訪時には声かけをするなど、意見や苦情を言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職や異動といった環境の変化が、利用者に与える影響の大きさをよく理解しており、ダメージを最小限に抑える配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
J					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修に参加しているとともに、事業所では内部研修も行っている。研修に参加できなかった職員には、参加した職員より内容を報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周辺市町村の福祉関係者等で組織する「広域連合」に所属している。広域連合の会議を通して同業者と情報交換を行い、連携を図り、サービスの質の向上に活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族と話し合いを重ねるとともに、事業所を見学してもらう等、不安なく利用を開始できるよう配慮している。また、利用開始後も、事業所の生活や他の利用者に早く馴染めるよう、気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常の家事全般を無理のない範囲で利用者と共に行っている。また、職員は利用者から、百人一首やお手玉等、昔のことを教えてもらうことが多い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者に常に声をかけ、よく話を聞くこと、表情を観察すること、家族からも話を聞くこと、また連絡ノート等を通して職員間の情報交換を密にすることで、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に、各ユニットの職員全員でカンファレンスを行い、意見を出し合って、介護計画を作成している。また職員は、普段の生活の中から利用者の意向を把握するよう努めている。介護計画については、家族に同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度、ユニット毎に職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を見直している。また、利用者の状態に変化があった場合は、その都度職員で話し合い、計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎、買い物や散髪等の外出、家族のもとへの外泊など、利用者の希望に応じて柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関のほかに、利用者の希望するかかりつけ医に職員が車で送迎しており、受診にも付き添っている。入院時も職員が面会に行き、医師や看護師と情報交換を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は、ターミナルケア研修を受講するなど、少しずつ取り組み始めている。しかし、職員間や家族との間で具体的に話し合っておらず、書式化した方針を作成するまでには至っていない。	○	今後は利用者の重度化が進んだり、看取りのケースが出てくる可能性もあるため、職員間で話し合い、事業所としての明確な方針を打ち出すとともに、家族にも早くから方針を説明して、話し合うような体制づくりに取り組むことを期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけない言葉かけや対応を心がけている。記録類は利用者の目に触れない場所に保管し、名前をローマ字で表記するなど、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の大まかな1日の流れは決まっているが、利用者それぞれのペースや、外出等のその日の希望に合わせて、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、利用者の好みを反映しているほか、行事や誕生日の際には、特別メニューで変化を持たせている。また、利用者はできる範囲で食事の準備や後片付け等を、職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、午後からと決まってはいるが、それ以外の日でも希望があれば毎日入浴は可能である。また、入浴を拒否する利用者には、無理強いせず、職員が代わる代わる異なった声かけをして促すなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や掃除、畑仕事等、利用者は力に応じて無理のない範囲で手伝っている。また、花見、楓風会、夏祭り等の地域の行事に参加したり、栗拾い、温泉、クリスマス会等の事業所独自の行事を計画するなど、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、散髪など、利用者それぞれの希望に応じた外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯のため施錠しているが、日中は施錠していない。玄関や居室にセンサーをつけ、利用者の出入りを把握している。また、台所や事務所から玄関が見える構造になっており、職員の目が届きやすい。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難訓練に参加しており、災害時には協力を得られる体制を整えている。また、今年度は事業所独自の避難訓練も初めて行っている。今後も、利用者の介護度が進む中、実際の災害時に全員速やかに避難できるよう、継続して取り組んでいく。	○	今後も地域での避難訓練や、事業所独自の避難訓練を定期的に重ね、災害時の事業所内での体制を整えるとともに、地域との協力体制も持続するよう期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量や水分摂取量を記録しており、不足しないよう配慮している。また、嚥下の困難な利用者、糖尿病の利用者等にも、状態に応じて対応している。栄養バランス等については、地域の栄養士に随時指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務所内は、季節の飾りつけをしており、家庭的で温かな雰囲気である。また、トイレや浴室等の要所には、手すりを設置しており、利用者が使いやすいよう配慮している。音や光、臭いにも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、家具や仏壇、装飾品、写真等、それぞれが使い馴れた物、思い出の品を持ち込んでいる。また、毎日掃除をしており、清潔で居心地の良い居室となっている。		

※  は、重点項目。